

第4回佐久市総合計画審議会 議事録（要旨）

日 時：平成23年3月24日

13:30～15:00

場 所：浅間会館 大会議室

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 事

(1) 第一次佐久市総合計画後期基本計画の進捗について

事務局より資料説明（資料1-1、1-2）

質疑、意見

<p>(委員)</p>	<p>17年から21年の5年間で、どのような資源が投入されているか、という観点からを見ますと、一番多いのがシルバーランドキシなので、5年間で100億以上のお金が投資されている。これは相当な負担だが、待機されていた方がどのくらい解消されたのか、またどのくらい雇用が創出されたのか、数値を示してほしい。</p> <p>評価の中で、環境の改善に対して、あまり効果が認められないが、投資額からいうと下水道の投資が、この次に多くて76億くらいある。下水道の普及率はどう変化して、どういう評価をしているのか。3番目に多いのが産業の振興の中で、技術・人材の育成というところの中小企業の振興補助金。毎年、相当の一定の額が投資されているが、どういう効果を期待されているのか。</p> <p>安全なまちづくりで、消防設備の整備事業に、広域連合の負担金がある。負担金というと、戦略投資であり、設備を改善したり、更新したり増強したりということだと思うが、通常の運営費用が含まれているように思う。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>シルバーランドキシの投資に対して、待機者がどの程度改善したか、について、ここで即答できる数字は持っていない。下水道の普及率も同様。</p> <p>産業振興において、中小企業の振興の補助金等の費用対効果だが、これは昨年実施した事業仕分けにおいても同じ議論があったが、なかなか企業・団体の皆さんに補助金を出して、それが来年度すぐに目に見える数字で効果を計れるかということ、それはちょっと非常に難しい面がある。中小企業の皆さんにいろいろな補助をしていて、例えば東京で製品をアピールして来るとか、それから中小企業振興資金といって、佐久市の制度資金を貸したり、従業員の人材育成に対して補助を出したりとか、いろんな補助を、施策を実施している</p>

	<p>が、それを次の年に、どういう数値が得られるかと言われても、数値として示すことは難しい。補助金については、だんだん積み重ねることによって、中小企業の皆さんの足腰が強くなって、全体としての産業の底上げができるとは考えている。</p> <p>安全安心のまちづくりの消防設備の負担金、広域の負担金だが、消防は、佐久市だけではなくて、南佐久・北佐久の市町村を含めた11市町村で佐久広域連合を組織して、例えば、はしご車を買ったり、消防庁舎を建てたりしている。一市町村で買うのではなくて、全体で整備することによって非効率にならないように、それぞれの人口などに応じて負担金を出して、その経費で賄っている。市民の安心安全のための消防事業に使われているので、負担金という形であるが、実質的には消防施設の充実に使われている。</p>
(委員)	<p>数値的に捉えられる仕組みになっていないのか。例えば消防では、5年前と今とで、どんな設備がどの様に増強されたのか聞きたい。</p>
(事務局)	<p>シルバーランドキシのは、6909 m<sup>2</sup>の施設で約20億円の資本を投じて整備した。これは国の一定のルールの中で施設を整備し、当時600名余の施設入所希望者がいたが100床を整備し受け入れができたという状況。雇用は特別老人ホームについては、国に基準があって、入所者3人に対して職員は1人配置をしなければいけないので、100床からの施設整備に対しては、単純計算で40名余の職員が雇用されたと思う。</p> <p>下水道は、本管等整備はしているが、本人負担となる繋ぎ込みをどのように進めていくのか、ということが普及率を上げる大きな問題だと考えている</p> <p>消防は、なかなか単体で表すことが難しいが、消防力といった冊子があるので、今後示していきたいと思う。</p>
(委員)	<p>数値的な把握というのができる仕組みを確立してほしい。そうしないと、また5年後にフィーリングでの採点になってしまう。</p> <p>中小企業の支援金は、事前に支援をする場合に、或いは相手が申請した時に、どのような目標があって、どういう効果を期待しているのかを、数値的に提示させる事が必要ではないか。その実施された1年後などに、どのような効果が数値的にあったのかを、提示させるような仕組みをしていかないといけない。前年がそうであったから、同じような金額がまた来年も必要であるようなことが、繰り返えされているのではないかと危惧してしまう。</p>

	<p>環境整備の中にリサイクル活動がある。その注釈で、ゴミ収集作業の委託とあるが、維持管理であって戦略的なものではないと思う。</p>
(事務局)	<p>委託費が戦略的な経費ではないという指摘か</p>
(委員)	<p>ある業者にゴミ収集を委託しているのは維持管理作業。ゴミ収集をより増強するとか、改善するとかいった歳出ではないと思う。ゴミ収集はしないと大変なことになる。しかし市の状態を維持していただくことであって、それ以上に良くしていく活動ではない。</p>
(事務局)	<p>当然その効果を見て、新年度どのように改善していくかを、次の年度で契約更新する時には考えて改善している。</p>
(委員)	<p>それは改善の程度であって、聞きたいのは、ここに上げた毎年50億くらい投資してきた、それは一般財政という中から、投資されてきたと思うが、一般財政は600億円ですか、ですから戦略投資は、その3割とか、20何%から30%くらいの投資が載っているわけだが、その投資には、おそらく改善・改革の投資であるというように上げられているんだと思っているけれども、それには該当はしないものが、いくらか含まれていると思っている。</p>
(事務局)	<p>資料のまとめ方を含めての質問だと思うが、前回の資料、前回の会議で示した新市建設計画の実施状況については、新市建設計画に載っている事業について、今こういう状況ある、また実施してきた内容を載せている。</p> <p>なので、それが戦略的なのか、投資的なのかは、また議論いただければいいと思っている。今後どうするかだと思うので、今回は新市建設計画にある委託的なことを含めて、どのように行っているか内容を示している。</p> <p>資料1-1と1-2は、新市建設計画を含め、施策としてどのように行われて、どのように評価をするのかを示している。内部評価なので、市で評価だが、こちらも見てもらいたいと思う。</p> <p>5年前と現状を比較する数値、またこの先も比較できる数値が必要ではないのかと意見をいただいたが、最初の会議中、この総合計画の見直し方針において、次の計画には数値で把握できるような内容のものは、できるだけ数値を掲げたいと説明した。各施策の指標となる数値は、何がいいか審議会で議論いただきたい。</p>

<p>(委員)</p>	<p>先々週くらい前に議会を傍聴した。議員から、総合計画について数値での目標に対する評価があるのか、という質問があつて、市長の答はあまり数値では評価していないという話であつたが、今回このような資料がでてきて驚いている。</p> <p>この評価してみた時に対応関係がわからないが、各事業について予算がバラバラなのではないかと思う。ものによっては0円もあるし数万円のものもある。新市建設計画については数万円のものから13億円のものもあるので、これを掛け算したらもっと面白くなるのではないかなと思う。例えば効果なしが、いくらになったとか、期待した効果ありが、いくらになったのか、という金額での比較にすると、また違うような内容が見えてくると思う。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>最初に説明したが、5年前の作成時の到達目標、例えば、道路については何キロ延長とか、そういう数値的な明確な目標がなかった。それでも何か評価数値を持たなければいけないと思い、自己評価を実施した。この反省点に基づいて、後期計画を作る時には、目標を数値化していきたいと考えている。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>金額に直せないかという質問だが、指摘のとおり新市建設計画と総合計画を比較する数字は出ない。総合計画の施策の中の一部が新市建設計画になる。総合計画を数字で表せないかという質問については、表せないことはないが、非常に膨大な業務量となると思われるので、ここで、できる、できないとは答えられない。</p>
<p>(委員)</p>	<p>例えば下水道の普及率は5年前にこの位だったが、10年後にはこうしよう、5年後にはこうしようという数字はあると思うので、全部の数値がないわけではないと思う。</p>
<p>(委員)</p>	<p>目的を達成するためには手段があるわけだが、それはいろんな施設を造るとか、その手段が上手く効果を上げているかどうかという、そういう評価もあるし、絶えずその目的と手段、それから主体がどこかということもあるが、目的や目標、それから手段を総合的に検討する必要があると思う。</p> <p>なので、事業、計画を作っていく場合、もう少し掘り下げないといけないとダメだと思う。ここにあった資料の6項目でいえば、その中の幾つかは進んだ、達成ができた、目的に近づいた、目的達成を上げつつあるものはなぜできたのか、なぜ進んだのか、その理由はどこにあったのか、原因は何かを掘り下げて、そこの教訓というか、</p>

成果を次に引き継ぐ、そういうものを浮き上がらせることが必要だと思う。逆に、進まないのはどうして進まなかったのか、どこに問題があったのか、そこを考察しなくてはいけない。そうでないと次に似たような認識でステップを計画をしても、同じ事の繰り返しになってしまう可能性がある。考察、分析、原因や理由を分析する、このために前提となった現状認識をはっきりさせないといけない。一個一個検証すると非常に膨大だが、資料の6項目あるうちのの一つ一つについて典型的な例、進んだ例、進まなかった例、などを取り上げて、それを定義する作業が必要。それを土台にして、いろいろな角度から検討できることになる。これはあまりやらないのかもしれないが、そこまでやれば全体のレベルが上がってくると思う。

例えば3項目目の100万経済、経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業都市となると、この前提となっている現状認識は、人・モノ・情報の結節点として、100万経済圏の産業拠点を開くということを目指している。それでいろいろなことを実施してきたが、結果はこうであったとなるわけで、事業をやっただけではなくて、当時認識していたポテンシャルというか、条件というか、そういうものまでを含めて検討しなくてはいけない。一つ一つ少し掘り下げて、問題を定義して、審議会ではこのように分析したとしたい。当時の認識は非常に甘かった、あるいは、非常に頑張り過ぎだった。だからこれではダメだと、もっとシビアに見ないとダメだと思ったと、こういう概要をださないと、次のステップに進めないではないかと思う。進捗の評価はそこまで掘り下げていく必要があると思う。

この評価別一覧には、地域の芸術文化の拠点施設としての、総合文化会館の整備を推進しますと書いてあるが、実際にはこれはできなかった。だから評価は1になっている。これは住民投票が行なわれて、7割の人が反対、3割の人が賛成という民意を受けて造らないということなので、文化の面では、期待した効果が得られなかったとして1だが、ここの評価の項目にはないが、本来であれば住民の参加とか参画という項目があっても良くて、その面では住民投票で民意が反映できた、この事実は非常に画期的なこととも言えると思う。住民参加、参画の面では、これを実施したことによってプラスになる面もある。その点の評価は3で良いので、1がすべてダメだったという事を、汲み取らないといけないと思う。これは具体的な例だが、例えば1のグループや2のグループから取り出して、次に繋げていく作業はやっぱり必要だと思う。

(事務局)

資料1-2に、細かくその施策ごとにまとめている。右から2番目

	<p>の欄のところに、それぞれの担当課で、課題等に、こういった事情で目標が達成できなかった。今後この課題を解決して、次の5年間の計画に臨みたいことが記載してある。また各施策について、担当課でその課題等も検討しているので、この課題を持ちながら、次の計画に反映させていきたいと考えている。</p>
(委員)	<p>企画課としては、各担当課から出てきた課題を列挙するだけではなくて、その中でこれは重要だ、次の総合計画には是非検討してほしいと、そういうメリハリをつけてほしい。</p>
(事務局)	<p>そのようなことも含め、委員のみなさんの意見を聞きながら、共に計画を見直していきたいと考えている。</p>
(委員)	<p>審議会での議論を効果的に、本当に議論するのにふさわしいか、そうじゃないのか、選別して議論していかないと、全部をいきなりやっても難しいと思う。</p> <p>いわゆる数値化というのが、逆にいろいろな意味でやり過ぎな面があるとも感じている。</p> <p>いろいろな意味で環境が変わっていくかわからないので、もっと弾力的にその課題に対して取り組んでいくことが大切だし、市民が一体となって一つの目標に向かって何かをやっている姿の方が、数値改良より重要なことではないかと思っている。</p> <p>提案として、次に進化していくような課題がたくさんあった方が、より素晴らしい活動ができるのではないかと感じている。資料1-2の課題の空欄が、すごく気になる。課題にはマイナスイメージがあるが、もっとプラスのイメージで、提案みたいな課題をだして、それについて議論していくというやり方が、この総合計画を作るのに大きな意味を持つのではないかと感じている。</p>
(事務局)	<p>外部の視点というのが非常に大切だと考えておりますので、市民からみて市の課題はおかしいよ、こういう課題に今後取り組んでほしい、というような意見がありましたら、どんどん言ってほしい。</p>
(委員)	<p>資料1-2だが、3ページに学校設備がある。教育内容の充実というところだが、少人数指導や、習熟度別指導などとあるが少人数指導はある程度の効果があると聞いたが、習熟度別学習は全く効果がないと聞いたことがある。その点についてはどう考えるか。</p>

(事務局)	担当課として、少人数指導や、習熟度別指導などについては一定の効果があり、期待していた効果が得られたとしている。この場で、具体的な内容での即答は難しい。
(委員)	習熟度別指導は、あまり効果がないと言われている。この理由として挙げられているのが、助け合いの部分がなくなってしまうからだというが、この点については、どう思われるか
(事務局)	担当課とすると、授業の進行などからして、習熟度別に、個々にきめ細かに指導した方が、それぞれのランクにおいてきめ細かく、例えば教員を二人に分けて指導できるため、全体としてのレベルも上がるし、レベルの低い人にとっても、高い人にとってもそれなりの効果が上がるということで、一定の効果が得られたと感じている。その習熟度別が効果がないということなので、担当課に伝えておきたいと思う。
(委員)	いろいろと意見はあるが、この場では難しい面もある。部会にわかれてじっくり詰めて、進めた方がよいと思う。

(2) 第一次佐久市総合計画後期基本計画及び市の取組みへの満足度・重要度に関する市民アンケート調査結果について  
事務局より資料説明（資料2）

(3) 第一次佐久市総合計画後期基本計画策定にあたってのフリートーキング（意見交換）について  
事務局より資料説明（資料（以前に配布した）佐久市の現状と課題）

#### 質疑、意見

(委員)	現状と課題の資料だが、きれいに整理され過ぎているので、逆に議論しにくい面がある。いろいろなことを問題にしたり、議論を深めていくには、このような項目出しのやり方もあるが、例えば、こういう地域にしたいとか、健康な都市にしたいといったビジョンがあって、この場合に、人口面や地域格差をどうやって考えるのか、というような資料もほしいと思う。  例えば震災に強いまちを造りたいといった時に、人の繋がりとか、いわゆるネットワーク、移動時間手段に対しての幹線等、緊急輸送路がちゃんと確保できてない、などが問題ではないかとか、そうい
------	---

	<p>う分析をするための資料もほしい。健康な地域を作りたい、あるいは文化をもっと高めたい、そのためには地域のこれがダメだとか、観光でいえば、小諸から川上までを含めて、もっと全体を有機的な関係で作らなくてはダメだとか、という問題が出てくるので、違う整理の仕方もあるのではないか。</p>
(事務局)	<p>事務局で、現状から捉えられる課題として資料を作成した。こういう姿にしたいから、ここが問題であるというような資料がほしい、ということであれば、目指す姿を提案していただきたい。事務局での設定もできるが、今回は本資料で検討をお願いしたい。</p>
(事務局)	<p>今日は総合的に全員が集まって議論する場。今後、分科会にわかれて細かい議論をテーマ毎にやっていく場もあるため、今日は用意した資料でフリートークをお願いしたい。</p>
(委員)	<p>二つ目の地域格差だが、市町村合併が進むと、全国的な傾向で、周辺部はだんだん寂れてしまう。臼田は、現在、佐久病院を軸としながら、どう地域作りを進めていくのかということ、ワークショップを立ち上げて検討している。従来の日本社会でとられてきた、行政に対しては何々してほしい、病院に対しては何々してほしいといった、「お願い型社会」からの脱却がすごく重要になっていると思う。つまり住民と一緒に参加して協働していくという、「参加と協働」が、これからの社会では、極めて重要になってくる。どのようにして住みやすい社会を作っていくのか、それは行政もそうだが、商工会、農業者など、そこに住んでいる全ての人々が参加をして、それぞれの創意工夫をした意見を出しながら、方向を導き出す必要がある。方向を導き出したら、それをどのように実践していくのか、そのような地域計画作りが極めて重要だと思う。</p> <p>これにより世界健康都市宣言に向けて、それぞれの地域でどうやっていくのか、震災に強い助け合いの社会が、どうしたら作れるのか、というような方向が見えてくるし、今問われている無縁社会にならないような力がついてくるのだと思う。</p>
(委員)	<p>総合計画はどうあるべきかと他の委員と話をした時に、要は計画にないことは実施できないので、総花的な方がいいんだよということになった。だから今の総合計画を読んでも何の不満もないが、逆に何を審議会で話し合うのかと思う部分もある。今までは総花的でよかったが、今後、ある程度達成率をみるためには、もうできること</p>



	<p>はできる、できないことはあまり盛り込まない方がいいとか、メリハリをつける必要があると思う。だから、どんな総合計画を作るのか、基本的なことを考えると、総花的なものを作るのか、総花的なことはやめようとするのか。また評価を着実にやっっていこうとするのか、結構重要なことだと思う。</p> <p>課題等の欄で空欄が多い。なぜ上手くいかなかったのか全部赤裸々に市民に報告していたら大変だと思し、市の中では情報共有されているって想像している。なので、取扱い注意の資料であれば、我々もいろいろ提供してもらえるかもしれないが、これが公開資料となれば、難しいと常識的に考えている。</p>
(委員)	<p>総合計画を実行するには、市の現在の体制では、区長さんがだいたい先頭に立って執り行っていることが現実だと思う。なので、これからの5ヵ年計画を実行していく中でも、区長さんの負担がとても大きいと思う。そこで名古屋の市会議員の報酬半額というようなこともあるが、この計画に市会議員減などを盛り込めれば、市民へのアピールになると思う。</p>
(委員)	<p>産業界では、5ヵ年計画、中期計画を立てる時に、強いところを伸ばして、非常に劣っているところをなんとかしようとする。穴が開いているところは少し我慢してもらおうような考え方で戦略を立てる。良いところを伸ばさないと5年後に企業が強くなっていかない。佐久市は、際立った産業がないと言われているが、決してそうではない、やり方が悪いからそうならないと思っている。</p> <p>佐久病院はいつも混んでいる。これを利用して、佐久市は医療を事業として強化する戦略をとってもいいと思うし、逆になぜ力をいれないか非常に不思議だ。佐久長聖の駅伝は、全国的にも大変有名なため、これももっと活用すればよいと思う。また最近五郎兵衛米も結構有名になってきた。</p> <p>佐久市にはこのように強みだってあるのだから、その強みにもっと変える力、人を投入していかなければいけない。戦略として、もっとメリハリをつければ、5年後には市の特徴というか、良さや強さが生まれくると思う。</p>
(委員)	<p>総合計画の改定には、地域の魅力や地域の資源について、もう一度着目する必要がある。潜在力をまずしっかり見定めることが大切だ。佐久市の最高の資源は自然条件と景観。晴天率が非常に高く、四季と、一日の温度差が非常にあり、メリハリがある。水や水源に恵ま</p>

れているし、土壌も豊かである。同時にこの佐久平は平坦地もある程度あって、中間地もあり山もあり、完全な山地のところに比べれば、いろんなやりようがあるため自然条件に非常に恵まれている。素晴らしい景観と絡めて、佐久市の大切な宝物として見直していくことが必要だと思う。

それから医療機関が素晴らしい。佐久総合病院だけではなくて、他の病院も連立しているが、最近は医療機関同士が機能を分担したり、連携していく動きになっている。全国的にもこれだけ進んでいるのは珍しいと思う。今までは佐久総合病院が、ある程度南佐久を中心として、病院完結型でやってきたが、一病院だけでは完結できない中で、地域で完結した医療共同体制を作ろうという動きになって、浅間病院、それから医師会や医療機関との連携が進められたのは、非常に素晴らしいと思う。

佐久市は交通網が整備されている。この交通網や、首都圏が近い利点を活かすように、もっと力点を置いて考えていくべきだと思う。今非常に心配しているのは、合併した後に、ジワジワと、あるいはかなりのテンポで進んでいるまちの一点集中で、周辺は相当厳しい状態にある。この状態が続いていくと、佐久市全体の活力が失われてしまう。旧市町村毎、集落毎に特色のある力が湧いてくるようなことをしていかなければいけない。

それから産業間や、自然条件インフラを合わせた、連結して戦略を立てるという発想が、もっと必要だと思う。最近、農商工連携プランができて、農業者と商業者と工業者が、連携していこうという動きがでてきている。これをもう少し上手く加速して、地元の利点を活かせば、例えば、佐久病院、あるいは医療機関で、たくさんの食材を使っているが、地域の食材を上手く使う、条件を上手く結びつければ、安定的に食料生産をして、それを病院や、学校、また福祉施設で使うことができる。それを実施するには相当な仕組みと、いろいろな条件を整えないと自然には簡単にできないが、上手くやればできる条件は非常にあると思う。

もう一つはそれを担う人の関係が大切だと思う。最近地震があったので、これからは助け合いだよ、と非常に真剣にいう人が多くなってきた。今までのように、誰かにお願いする、誰かがやってくれるのではなくて、自分達で行こうという気運は、この非常に厳しい中で、起こってきているし、すでに人の役に立った活動をしている人もいるから、役立ちたいと思っている人も必ずいると思う。そういう人達が活動できる場を作っていく事が必要だと思う。

このような中で、市役所が非常に重要だと思っている。行政の事務

	<p>や事業を執行する組織から、シンクタンクになるべきだ。全国、全世界の情報を分析して、新しい構想をもって住民を引っ張るのではなくて、住民にちゃんと情報を伝えて、問題提起して一緒に考えていってほしい。これを担う職員が育って、生き生きと能力を全面的に発揮していく組織になると市民も発奮してレベルが上がっていくと考える。</p>
(委員)	<p>平成17年に合併した際、今後10年間の目標を立てて総合計画ができています。前期の5年間の経過、後期5カ年計画を作成するにあたり、皆さんからの意向があって、時代とともにいろいろな物に加えていかなければいけないし、大幅に中身を入れ替えることも必要かもしれませんが、基本的には当初の10年間の計画を忘れずに進めていかなければいけないと思っています。</p>
(委員)	<p>佐久病院を中心にして、浅間病院との協力、それから各医療担当との役割分担、地域完結型医療ということで、今一生懸命医師会でやっている。そして、日本一の医療となる地域としてのネットワークを作り、世界最高健康都市の実現に繋げていきたいと思っている。これにより人口減を防ぎ、むしろ国内で佐久だけは人口が増えていくというような、そんな活力ある都市にしていきたい。</p> <p>今度の原発事故で、セシウムなど放射能が問題となっている。このため放射能の測定強化を行い、佐久市は、やっぱり非常に自然環境が優れていることをアピールできたらいいと思う。</p>
(委員)	<p>佐久市は、素晴らしい気象条件であり、高速交通網も発達しているため、発展するポテンシャルが非常に高いと思う。災害も少ないし、佐久平は開けている。医療も充実していることから、これらを上手く組み合わせてまちづくりを進めてほしい。</p>
(委員)	<p>佐久市の基幹産業の一つは農業。日本は7月に、太平洋を取り巻く環状地帯11カ国でTPPを結び、関税の完全撤廃を行おうとしているが、そうすると安い農作物がどんどん輸入されるため、国内の農業は成り立たなくなってしまう。しかし有事になると、輸入自体が保証されない可能性があるため、産業の中に、しっかりと農業を確立していかなければいけない。</p>